

第3次稚内市総合計画 施策実施状況調査

03 感性豊かなひとづくり

05 国際交流・都市交流の推進

01 国際交流の推進

| 主要施策 | 施策実施状況(※1) | | | | | | 問題点、課題 |
|-----------------------------|------------|-----|-----|-----------------------------|-----------|--|---|
| | 実施 状況 | 進捗率 | | 第4 次 の 方 向 性 | 小項目の総合的評価 | | |
| | | (%) | ペース | | 評価 | 評価内容 | |
| 15 青少年の国際交流機会の提供 (社会教育課) | 4 | 95% | 1 | 1 | 2 | ・稚内北星学園大学とサハリン国立総合大学との交換留学事業により、毎年2名程度の交換留学を行っており、一定の成果が得られている。 | ・この事業は平成3年度より実施されている事業であり、派遣・受入人数は、初年度20名ずつ、次年度以降2名前後で推移してきた。平成20年度以降の交換留学についても計画的に実施。 |
| (サハリン課) | 4 | 80% | 2 | 1 | 2 | ・少年少女サミットや少年少女文化祭、青少年体験友情の船など関係団体や教育関係と連携のうえ、交流機会の創出を行ってきた。 | |
| 10 市民の国際化意識の高揚 (サハリン課) | 4 | 60% | 2 | 1 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民視察団の派遣や各種交流事業の実施によって、市民の国際化意識は高揚しており、地域文化の相互理解は得られたものとする。 ・関係団体に関しては、事業に対する補助金や、負担金など支援を行い、各団体と連携を取りながらサハリン交流の推進を図ってきた。 ・経済交流については、民間事業者で、サハリンの研修生受入を受け入れるなど人的繋がりも期待できる。また、トレードフェアを行いビジネスマッチングを図ったが今のところ大きな成果が得られていない。 ・合弁事業としては、一部民間事業としてワッコールがサハプロ関連工事を受注するなど、一定の促進があった。 ・道のパートナーシッププロジェクトにサハリン交流事業を盛り込み、道と連携のもと推進を図った。 ・サハリン事務所の機能について、情報収集・発信や経済交流の推進に努めてきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化交流については、十分な進展が見受けられるものの、経済交流については、関税の高さや手続きの面倒さが存在しており、この解消を図らなければ進展することは難しいと思われる。 ・サハリン事務所については、民間企業との役割分担などを再調整する時期に来ていると考えられる。 |
| 20 地域文化の相互理解の促進 (サハリン課) | 4 | 60% | 2 | 1 | | | |
| 25 関係団体の育成強化 (サハリン課) | 4 | 70% | 2 | 1 | | | |
| 30 サハリンとの経済交流の推進 (サハリン課) | 4 | 85% | 2 | 1 | | | |
| | | | | | | | |

01 国際交流の推進

| 主要施策 | 施策実施状況(※1) | | | | | | | 問題点、課題 |
|---|------------|-----|-----|---------|-----------|---|---|--------|
| | 実施状況 | 進捗率 | | 第4次の方向性 | 小項目の総合的評価 | | | |
| | | (%) | ベース | | 評価 | 評価内容 | | |
| 35 日ロ共同事業、合併事業の促進 (サハリン課) | 4 | 85% | 2 | 1 | | | | |
| 55 パートナーシップ・プロジェクト(サハリンとの交流拠点の形成)の推進 (サハリン課) | 4 | 85% | 2 | 2 | | | | |
| 60 稚内サハリン事務所の機能拡充 (サハリン課) | 4 | 85% | 2 | 1 | | | | |
| 40 国際港湾都市としての基盤整備 (サハリン課) | 4 | 85% | 2 | 1 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際港湾都市としての基盤整備は、国際ターミナルビルの建設やフェリーバースの整備など着々と行われているものの、フェリーを利用した物流についてはサハリンプロジェクトが一段落したこともあり最盛期を経た感がある。 ・サハリン定期航路については、その安定就航を図るため運航支援補助を行ってきた。年々、運航期間が拡大され、便数が増えるとともに貨物や旅客数が増えてきたが、昨年より運航会社の経営上から減便傾向となっている。 ・国際航空路線については、あまり進展は見られない。 | サハリン定期航路の充実のためには、至近距離にある稚内の地理的優位性を前面に出して、サハリンからの観光客誘致を積極的に仕掛け、観光施策の充実という側面を併せ持つていく必要性を感じている。このことによって、単独航路として自立できる可能性を摸索しなければいけないと考えている。 | |
| 45 サハリン定期航路の充実 (サハリン課) | 4 | 60% | 2 | 1 | | | | |
| 50 国際航空路線の就航促進(再掲) (サハリン課) | 4 | 20% | 2 | 1 | | | | |